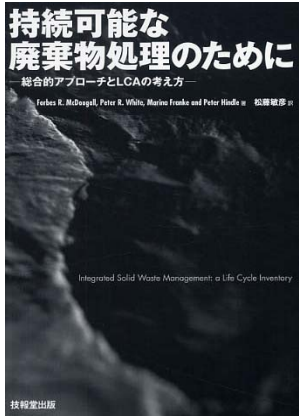


## 廃棄物処理に関する一般書籍



### 持続可能な廃棄物処理のために ～ 総合的アプローチとLCAの考え方 ～ (技報堂)

「リサイクルはどこまで行えばよいのか」「ごみ処理方法はどのように選択すべきなのか」「最終的にどのような姿を目指すべきなのか」といったことは廃棄物に携わる多くの人が抱いている疑問である。本書は「Integrated Solid Waste Management: a Life Cycle Inventory, 2001」を日本の実情を考慮して抄訳したもので、日廃棄物処理の総合的アプローチ、月持続可能性の概念を提示し、火豊富な事例や水都市ごみ処理技術を紹介することにより、これらの疑問に対して明確な方向性を与える。

### 都市ごみ処理システムの分析・計画・評価 ～ マテリアルフロー・LCA計画プログラム ～ (技報堂)

都市ごみ処理システムはコスト最小に加えて、環境影響をできるだけ小さくすることが求められている。しかし、ごみ組成や分別の多様化、さらには処理方法の多様化のため、処理法の選択肢は増加、よりよい処理方法の決定は大変難しい作業である。本書は、自治体でのごみ処理計画を模シミュレートし、処理システムの概略設計を示し、同時に処理別のユーティリティ使用量、コスト、エネルギー消費量などを計算する実用プログラムH-IWM (Excel版)を提供すると共に、計算方法の詳細などを解説している。



### プラスチックリサイクル入門～ システム・技術・評価 ～ (技報堂)

本書は、プラスチックリサイクルの技術や制度だけを扱うのもでなく、プラスチック全体の発生から再利用までリサイクルを「システム」として捉え、その健全さを保っていくことを目標として書かれたもの。ライフサイクルアセスメントの章では長く議論されてきた「プラスチックはどのようなリサイクルがよいのか」という問いに工学的見方を与えており、本書の大きな特徴にもなっている。この一冊でプラスチックリサイクルのことおおよそがわかる、技術者、学生、自治体職員、市民向け入門書。